

NO. 16

発行日 : 2013年9月7日

原発事故被災者 相双の会

連絡先

國分富夫(会長代行)

住所

〒965-0013 会津若松市堤町6-12

電話 090(2364)3613

メール

kokubunpi-su@hotmail.co.jp

事務局

鈴木宏孝 090-2909-6133(浪江)

坂上義博 090-1067-7265(大熊)

板倉好幸 090-9534-5657(南相馬)

福島第一原発汚染水漏れレベル3

レベル3は「重大な異常事象」とされるもので、8段階の上から5番目で、高濃度の汚染水が海へ流出した。東電は8月31日汚染水保管タンク群4カ所で高線量を確認したと発表した。毎時約1800ミリシーベルト（東電の発表だから信用できない。もっと高いと思われる）4時間浴び続けられれば死亡する線量に当たると言われている。原発は停止しようが冷却を続けなければならない。だから汚染水は増えるばかりだ。それに地下水流出で手の施しようがないのが事実だろう。

原発事故で死の町、二度と戻れない地域となった所が多くあります。汚染水流出でも明らかのように原発事故はまだ進行中である。

私たちは帰還は出来ないのか、住んではならないと言うことにつながるのか。日常生活のなかであまり気が付かない事だが、山、川、海どれ一つ欠けても生きてはいけないし、住むことが出来ない。

東北の太平洋は一年を通して波が高いためか魚の身がしまり美味しい。特にカレイ類が高級魚として都会へ出荷、浜通りの私たちからすれば海の無い生活は考えられない。

汚染水漏れについて「海外メディアも批判的な報道を続けている。危機感を強めた政権は対策に着手したものの、抜本的な解決の見通しは立っていない」と「朝日」（8月30日）も報じている。

だいたい、今になって「レベル3」だなどと笑わせるな。福島第1原発事故自体が今でも「レベル7」と国際的にも決められていることを忘れてはならない。

誰が見ても原発は国策で行い各電力を擁護し、法律で儲ける仕組みにしてきた。その上私たちの税金を汚染水処理に470億円も投入するのですからぼろ儲けだ。日本の電気料金は世界一高いと言われていているのに。



原発作業員「漏れる心配あった」
福島第一の汚染水問題で証言

心まで癒される 針灸・マッサージ師のボランティアの皆さん

東京・関東の針灸・マッサージ師の有志のあつまりである「関東中野グループ」がボランティアとして福島、郡山へ休みを利用し診療無料で来て下さいました。会津若松にもこれまで3回来ていただき毎回30人程度診療を受けてきました。常に避難者の方々は運動不足で体調不良を訴えている中、遠い神奈川の方から来ていただいている事に厚く御礼申し上げます。

診療を受けた方は口を揃えて「体が軽くなった」「モヤモヤしたものが吹っ飛んだ」と言っています。本当に有り難いことです。大事な休みと家族を犠牲にしてまで来て頂いている事に頭の下がる思いです。



福島原発避難者訴訟 原告の思い

子供たちの未来のために
裁判を決意しました

あてのない避難生活

私は、双葉郡富岡町で生まれ育ち、結婚後浪江町に新居を構え、妻と5歳の子供の成長を楽しみながら、穏やかに3人で暮らしていました。3.11までは……………。

あの日、14時46分に大地震が起きました。今まで経験したことのない地震でした。職場のある阿武隈山間の村、川内村にいた私は、子供の時に経験した宮城県沖地震を思い出し、テレビでも宮城沖を震源とする地震と伝えていたと記憶しています。幸いと言うか川内村では、屋根の瓦が壊れ

たりするくらいで、大きな被害もなかった様に記憶しています。電話は繋がらなく、停電はしたものの仕事を続けていました。

沿岸部では大変なことになっているとは思わず……夕方、家に帰る途中、富岡町から様子がおかしい。停電のせいか、真っ暗で様子が分からない。大熊町に入ると道路が陥没して通れず、迂回しながら倍以上の時間がかかり、やっとの思いで浪江の自宅に着きましたが家の中は物が散乱して、妻も子供もいなく、実家の南相馬市に避難していることが分かり安心、当時3歳だった子供は、地震の恐怖から一晩中母親から離れず、茶の間で雑魚寝の状態でした。

翌日（12日）、ニュースで、「原子力緊急事態宣言」が出され避難区域が10^{km}圏内に拡大されたことを知り、自宅へ戻れなくなってしまいました。

そして1号機建屋の水素爆発……夕方、義理の兄が「ここも危ないから、遠くへ避難しよう」

となり4家族で実家を出て西に向かい、あてのない避難がはじまりました。

川俣町、米沢市、茨木、南陽市と転々となりました。原発は、14日午前11時頃3号機水素爆発、15日午前6時頃4号機水素爆発、午前6時10分頃2号機水素爆発、午前11時には半径10～20*₃圏は避難指示、20～30km圏内は屋内退避と、事態は深刻になるばかりでした。

ウツと痴呆になやむ

猪苗代町に3月末に避難し何することもなく、テレビ、新聞を見ながら不安な日々を過ごしていました。唯一の救いは、子供の元気な遊ぶ姿と、支援物資等、人の心の温かさ・・・感謝、感謝です。

5月から仕事も避難先から通勤できる会津若松に移動となり、金銭的な面で、一安心。住めなくなった自宅の住宅ローンの支払も再開しました。しかし7月からは、避難所から今の借り上げ住宅での生活と新たな環境で、ストレスも溜まる日々でした。妻も先の見えないことから体調を崩し、軽うつ病と診断されました。また、私の実家の富岡の父親も震災前から軽い痴呆があったが、避難生活、山梨県での慣れない土地での生活で、痴呆が進み、介護認定を受けるまでになってしまいました。

あれから2年6ヶ月、今年の4月に浪江町も警戒区域の再編から、我が家は居住制限区域となり、昼間は、自由に出入り出来るようになりましたが住むことはできません。これまで2度ほど一時帰宅をしましたが、そのたびに荒れ果てた我が家を見てガックリです。ネズミの被害を聞くたびに、我が家も同じなのかと思うと行く気にもなれません。震災前の我が家の風景、思い出と現実のギャップを受け入れたくない思いが、我が家から遠ざけているように思います。

それに、5歳の子供の事を考えると、浪江に戻ることは考えられません。福島県内での生活とな

ると、会津地方かなと、悩む日々が続いています。このような悩みを抱えている人は、たくさんいるでしょう。

全てを失って、もうがまんできません

今回の原発事故がもたらした影響は、今後も長く続くと考えられます。誰も経験したことがないため、これからどんなことが起きてくるかわかりません。政府も「ただちに健康に影響はない」としかいわず、専門家の意見も様々です。

現在、福島第一原子力発電所は汚染水や地下水と様々な問題が次から次へと起きて、その対応に追われ、後手後手の状態です。廃炉までの道のり何十年かかるかは誰もわかりません。

原発事故では、避難区域はもとより、福島市、伊達市、二本松市、郡山市など、中通りの多くの地域が汚染されました。福島県以外の地域でも多くのホットスポットが出てきています。

事故が起きると制御（コントロール）出来なくなるのが原発であり、核の平和利用などあり得なく共存出来ないことが証明されました。

原発事故が起きたら私たちが経験したように出来るだけ遠くへ逃げるしかありません。それは家をはじめすべてを捨てることです。二度と帰れない故郷、これでも我慢しろと言うのでしょうか、子どもは親、大人が守らなければなりません。それが責任です。

私は、二度とこのような惨事をおこさぬために、子どもたちの未来のために、さらに避難者の生活再建を早急に東電に誠意をもって行わせるために、全国の誠意ある方々のご協力を得ながら裁判闘争に立ち上がりました。宜しくお願いします。

被災地浪江町から会津猪苗代町へ避難

武上直志

***相双の会から裁判の原告に加わっているのは、今のところ43人います。原告の思いを順次この会報に掲載していきます。**

声

声

6.22 小出裕章講演会 会場アンケートから

悩み事

「来年からの営農再開が本当に出来るのか心配です。原発事故契機に離農者続出です。優良農地に仮置き場設置は絶対反対でしたが、多数決で決定されました」(62歳 男)

「避難者が多く、特に若い世代、子供が避難中で、地域の将来が見えない。毎月人口が減少している。国道6号が通れなく山間地帯を遠回りしないと、東京の子供たちの所へ行けない。鉄道が不通。このままだと放射能の影響で子供が帰ってこない」(53歳 男)

「家族がバラバラ。静岡の孫~避難後いまだに登校できず。いわきの息子~子供の教育のため仕事を止める事ができない。原町、私たち夫婦~精神的に痛み仕方なく二人で原町に戻った」(女)

「飲料水を買っている。市は安全というが、学者によっては安全でないといっている」(69歳 男)

「原発には毎日不安で、地震、台風時に不安で毎日を過ごしている。国家を信用していない。何を信用していいかわからない」

「先のない老人である私は、地震や津波の被害は何もない。あるのは放射能被害だけである。ただ、僅かな土地だけを子供達に残したいと思っていたものが、放射線まみれで価値のないものになってしまった。それが残念でならない」(80歳 女)

避難や賠償に伴う人間関係の悩み事

「避難中に変な目で見られた。子供が南相馬出身と言えない。東電に加害者意識がない」(53歳 男)

「賠償金もらって働く事を忘れていたのでは、という張り紙を見た。何件も車を傷つけられたと聞いている。いわきナンバーを福島ナンバーに変更した。原町では現在は精神的保障が切られた。避難した私達が肩身の狭い時がある」(女)

小出先生の講演を聴いて

「これからも子供たちが低線量をあびつづけたら、どーなるの？ 今日先生のお話を聞いてわかりました」(69歳 女)

「先生の本は3.11以降全て読んでいます」

「双葉郡内の首長全員が参加できればよかった。聞くだけでなく、それを行動に移せるような取り組みが必要」(61歳 女)

「もっと先生にテレビ等で原発の影響を話してもらいたい」(53歳 男)

「安全神話を信じていたというお話でしたが、私はずっと信じていませんでした。絶対安全は世の中にはありませんもの」(女)

除染について

「線量の減少を期待して、雨樋交換、障子・ふすまはりかえ、外壁塗り替え、床板交換、たたみ交換、を実施して線量を測定したら、室内中央で0.01マイクロシーベルト減っただけでした」(73歳 女)

その他

「20k圏内と30k圏内での差別が大きすぎる。原発事故による地域の影響を東電、国もわかっていない。賠償金についても、被害者への対応が悪すぎる。東電側の都合で進められている。国は都合が悪い時ばかり東電の責任を押し付けている。地域破壊させた責任は大きすぎる。貴会で伝える機会があれば話してほしい」(53歳 男)

「相双の会」会報に ご意見を

是非ご投稿をいただき「声」として会報に載せたいと考えています。匿名でもけっこうです。

日ごろ思っていることを打ち明けてください。

連絡先 電話 090(2364)3613

メール kokubunpi-su@hotmail.co.jp(國分)